

② 光秀と汐越の松

あわら市浜坂に「汐越の松」と呼ばれる松林があります。汐が打ち越し、根が現れた様子から根上りの松とも呼ばれ、西行や後には芭蕉も訪れる歌枕の名所です。この松を詠んだ光秀の和歌が越前の地誌に載っています。

出典はおそらく『明智軍記』で、同書には永禄8年(1565)光秀が称念寺の僧らと山代温泉(加賀市)に向かう途中、汐越の松を見て感じ入った様子が描かれており、この歌も登場しています。

なお、光秀の娘玉(ガラシャ)の婚家である細川家の家史『綿考輯録』には、この歌は玉の舅で歌人でもある細川藤孝(幽斎)が同所で詠んだものとする異説が載っています。



汐越の松(あわら市浜坂)